

解答

- 一 ① つかさど(る) ② ごんげ ③ ちようほう ④ じようせき
⑤ ごう ⑥ 災(い) ⑦ 延(ばして) ⑧ 衛生 ⑨ 土俵 ⑩ 専念

- 二 問一 A ア B ウ C エ D オ
問二 X エ Y ウ

- 問三 I 贈与交換 II 売買取引 III 継続性

- 問四 ウ

- 問五 ① ア ② イ

- 問六 ウ

- 問七 御負という字に、もらった側の負い目感情が表われていると想像され、商人の心理作戦を感じ楽になるから。

- 問八 イ

- 三 問一 a エ b ウ
問二 イ

- 問三 イ

- 問四 イ

- 問五 イ

- 問六 普通の友として付き合う

- 問七 子規が打ち

- 虚子を自分の後継者と見込んで親のような気持ちで忠告してきたが、虚子に後継者になることを断られ、とて

- も落胆し、悲しむ思い。

- “孤”にともなう哀切を知った。

- 自らの手で文学に挑んでいこうと決意した。

解説

- 二 問七 「おまけを漢字で書く」と『御負。』で始まる文章以降で、「もらった側の負い目感情の『負う』だと想像してみた
くなります。・・・言葉の使い方にも、商人の心理作戦が感じられて楽しくなります。」と述べられています。

- 三 問七 「今まであしは自分のようになってほしいとお前の素行を責めたが、あしの誤りであった」で始まる子規の言葉
に、子規が虚子を後継者と見込んで接してきたことが述べられています。また、虚子に後継者になることを断ら
れた後の、「子規の落胆と、それ以上にその身体を疲れが襲っているよう」という描写に、子規がとても落胆して
いる様子がわかります。